

ふたば医療センター附属病院の概要

1 経緯

- H27年7月 『福島12市町村の将来像に関する有識者検討会』から提言
- ・二次救急医療等を担う医療機関の確保を進められるよう、国の参画のもと、広域的視点で福島県が地元市町村、関係機関と連携して協議の場を設け、各市町村における医療提供体制の整備方針を早急に議論し、具体化していく。
- 9月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会』の設置
- H28年2月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会（第3回）』
- ・「二次救急医療機関の先行整備」が急務であり早急な計画の立案、具体化が必要。
- 6月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会（第4回）』
- ・双葉郡に先行整備すべき二次救急医療機関の機能の大枠を提示。
- 7月 『双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会（第5回）』
- ・県が整備主体となることを示す。
- H29年6月 「ふたば医療センター附属病院」安全祈願祭・起工式
- H30年4月 「ふたば医療センター附属病院」開院式（4月1日）
「ふたば医療センター附属病院」診療開始（4月23日）
- H30年7月 訪問看護開始
- H30年10月 「多目的医療用ヘリ」運航開始（10月29日）
- R元年6月 「多目的医療用ヘリ」休日運航開始（6月1日）

2 趣旨

- 二次救急医療をはじめとする双葉地域に必要な医療を確保し、次の「3つの安心」を医療の面から支える。
 - ① 住民が安心して帰還し生活できる
 - ② 復興事業従事者が安心して働ける
 - ③ 企業等が安心して進出できる
- 双葉地域で二次救急を担う医療提供体制を整備することにより、近隣地域の二次・三次救急医療機関の負担軽減を図る。

3 提供する医療機能等

- 診療科（救急科・内科）
- 救急医療（24時間365日対応）
 - ・ 一次救急、高度医療や専門医療を必要としない二次救急
 - ・ 休日夜間など地域の医療機関が開院していない時の急病
 - ・ かかりつけ医からの紹介
- 在宅・訪問医療
 - ・ 急性期治療終了後、在宅復帰に不安のある患者に対する支援
 - ・ 地域の医療機関からの依頼による訪問診療、訪問看護や訪問リハビリテーション
- 地域包括ケア推進の支援
 - ・ 町村や医療機関、介護福祉施設等と連携し地域包括ケア推進を医療の面から支える。
- 健康増進支援
 - ・ 健康教室や出前講座等を通じて、地域住民等の疾病予防や健康増進を支援する。
- 交流・研修事業
 - ・ 町村の医療保健担当や地域の医療スタッフ等との情報交換や事例検討会を通じて、地域のネットワークを強化する。

4 運営体制

- 勤務医師
 - ・ 常勤2名
 - ・ 非常勤(医大ふたば救急総合医療支援センター(8名)及び11講座からの派遣教員、J A福島厚生連からの派遣、県立医大学外非常勤医師の派遣)
- 一般的な医師の診療体制
 - ・ 日中帯：4～5名
 - ・ 夜間帯：2名
- 医療スタッフ
 - ・ 看護師27名(うち、他県自治体からの応援2名 ← 元年度7名)
 - ・ 薬剤師2名
 - ・ 放射線技師3名(うち、他県自治体からの応援1名 ← 元年度1名)
 - ・ 臨床検査技師2名
 - ・ 理学療法士1名
 - ・ 作業療法士1名
 - ・ 栄養士2名(元年度まで、他県自治体等からの応援1名)

5 施設等

- 所在地
双葉郡富岡町大字本岡字王塚817-1
- 敷地面積
約11,177㎡
- 延床面積
約3,860㎡(病院1階：2,876㎡、病院2階：898㎡、車庫：86㎡)
- 建物構造
重量鉄骨造
- 病院諸室
病室30床(全室個室)、救急治療手術室、診察室3室、外来患者処置室、初療室、除染室、調剤室、リハビリテーション室、検査室、CT室、X線室など
- 附帯施設
駐車場約90台、ヘリコプター離着陸施設
- 施設整備費
約24.1億円(財源：地域医療再生基金)

6 多目的医療用ヘリ

- 双葉地域における救急医療の更なる強化に向け、附属病院を基地として、多目的医療用ヘリを運航している。
- 浜通りの医療機関と県立医大などの高度専門的な治療が行える医療機関間の患者搬送を多目的医療用ヘリで行うことにより、救急搬送時間が大幅に短縮され、救急患者の重症化防止や移動中の負担軽減を図ることができる。
- 運航経費…2.6億円(令和2年度予算額)